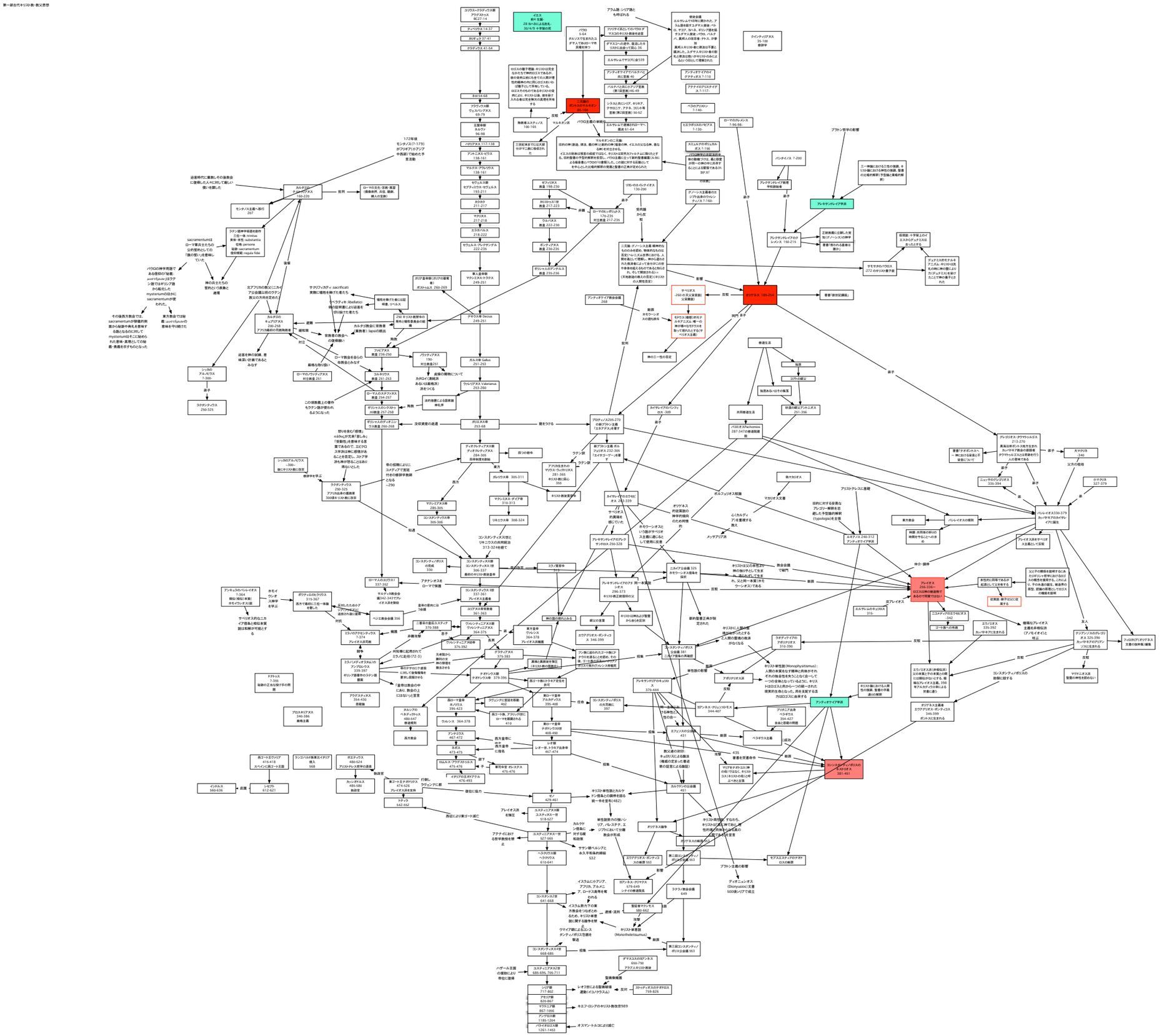
第一部古代キリスト教-教父思想


コリウス~クラデンウス期
アウグストゥス
紀元27-14
ティベリウス 14-37
カリギュラ 37-41
クラデンウス 41-54
ネロ 54-68
フラヴィウス朝
ヴェスパシアヌス
69-79
五賢帝期
ネルウァ
96-98
ハドリアヌス 117-138
アントニヌス・ピウス
138-161
マルクス・アウレリウス
138-161
セプティムス朝
セプティムス・セウェルス
193-211
カラカラ
211-217
マクリヌス
217-218
エラガバルス
218-222
セウェルス・アレクサンデル
222-235
軍人皇帝期
マクシミヌス・トラクス
235-251
デキウス帝 Decius
249-251
ガリア皇帝期(ガリアの離叛帝)
ポストゥムス 260-269
ガルス帝 Gallus
251-253
ウァレリアヌス Valerianus
253-260
ガリエヌス帝
253-68
ディオクレティアヌス期
ディオクレティアヌス
284-305
四帝の制帝
ガレリウス帝 305-311
マクシミヌス・ダイア帝
310-313
リキニウス帝 308-324
コンスタンティヌス帝
305-306
コンスタンティヌス期
コンスタンティヌス1世
306-337
最初のキリスト教皇帝
コンスタンティヌス期
コンスタンティヌス2世
337-361
アレイオス主義者
コンスタンティヌス帝国
361-363
ウァレンティニアヌス期
ウァレンティニアヌス
364-375
ウァレンティニアヌス帝
375-392
グラティアヌス
375-383
テオドシウス期
テオドシウス帝 379-395
ウァレンティニアヌス2世
392-394
西ローマ皇帝
ホノウス
395-423
西ゴート族、アフリカ侵略
ローマを掠奪される
410
ウルキン族 364-378
アンテミウス
467-472
ネポス
473-475
ロムルス・アウグストゥルス
475-476
イタリアの王オドアケル
476-493
東ローマ皇帝
アルカディウス
395-408
東ローマ皇帝
テオドシウス2世
408-450
東ローマ皇帝
レオ帝
レオ一世、トラキア出身帝
457-474
東ローマ皇帝
ゼノン
474-491
東ローマ皇帝
アナスタシウス1世
491-518
ユスティニアヌス朝
ユスティニアヌス一世
518-527
ユスティニアヌス一世
527-565
ヘラクレウス朝
ヘラクレウス
610-641
コンスタンス2世
641-668
コンスタンティヌス4世
668-685
ユスティニアヌス2世
685-695, 705-711
ソリウ朝
717-802
アモリア朝
820-867
マケドニア朝
867-1056
アンゲロス朝
1185-1204
パライオロゴス朝
1261-1453
ローマの支配
ローマの支配/宗教/風習
(偶像崇拝、兵役、観察、
婦人の支配)
モンタノス主義~異行
207
ラテン語神学伝統を創作
三位一体:trinitas
実体・本性:substantia
仮面:persona
秘跡:sacramentum
信仰規範:regula fidei
sacramentumは
ローマ軍兵士たちの
公的誓約としての
「誓の言い」を意味し
ていた
神の名をたちの
誓約という表象と
連環
後裔
パウロの神学用語で
ある信仰の「秘儀」
μυστήριονはラテ
ン語でまずは「神
から転化した
mysteriumのほかに
sacramentumが使
われた
その後西方教会では、
sacramentumが聖儀的側
面から秘跡中心主義へ
の動とならるにおいて
mysteriumはそこに秘めら
れた意味・真理として秘
義・奥義を示すものとなった
東方教会では秘
義:μυστήριονの
意味を引い続けた
カルタゴの
キュプリアヌス
200-258
アフリカ教会の司教制度を
北アフリカの教父(ニカイ
ア公会議以前のラテン
教父の方向を定めた)
避難
迫害
対立
背教者の教会へ
の復帰願い
迫害を神の試練、恵
み法:計画であると
みなす
最極な敬い強い
ローマ教会を母らの
母教会とみなす
シッカの
アルノビウス
-300-
弟子
ラクタンティウス
250-325
ローマのパンタナス
司教在 251
ローマ教会
司教在 251-253
ローマのコルネリウス
司教在 254-257
ギリシャ人のディオニシ
ウス司教在 257-258
ギリシャ人のディオニシウス
司教在 260-268
沒収資産の返還
殉教
ローマ教会
ファビアヌス
司教在 236-250
ノヴァティアヌス
190-
対立教皇251
カタロイ(清純派
あるいは最極派)
決をつくる
真摯の精物について
法的迫害による国家権
神化界
ガルス帝 Gallus
251-253
ウァレリアヌス Valerianus
253-260
ガリエヌス帝
253-68
ディオクレティアヌス期
ディオクレティアヌス
284-305
四帝の制帝
ガレリウス帝 305-311
マクシミヌス・ダイア帝
310-313
リキニウス帝 308-324
コンスタンティヌス帝
305-306
コンスタンティヌス期
コンスタンティヌス1世
306-337
最初のキリスト教皇帝
コンスタンティヌス期
コンスタンティヌス2世
337-361
アレイオス主義者
コンスタンティヌス帝国
361-363
ウァレンティニアヌス期
ウァレンティニアヌス
364-375
ウァレンティニアヌス帝
375-392
グラティアヌス
375-383
テオドシウス期
テオドシウス帝 379-395
ウァレンティニアヌス2世
392-394
西ゴート族、アフリカ侵略
ローマを掠奪される
410
ウルキン族 364-378
アンテミウス
467-472
ネポス
473-475
ロムルス・アウグストゥルス
475-476
イタリアの王オドアケル
476-493
東ローマ皇帝
アルカディウス
395-408
東ローマ皇帝
テオドシウス2世
408-450
東ローマ皇帝
レオ帝
レオ一世、トラキア出身帝
457-474
東ローマ皇帝
ゼノン
474-491
東ローマ皇帝
アナスタシウス1世
491-518
ユスティニアヌス期
ユスティニアヌス一世
518-527
ユスティニアヌス一世
527-565
ヘラクレウス朝
ヘラクレウス
610-641
コンスタンス2世
641-668
コンスタンティヌス4世
668-685
ユスティニアヌス2世
685-695, 705-711
ソリウ朝
717-802
アモリア朝
820-867
マケドニア朝
867-1056
アンゲロス朝
1185-1204
パライオロゴス朝
1261-1453
ローマ教会
ローマの司教
ローマ教会の
最高司教
ローマ教会
ローマ教会
ローマ教会